

第1・2学年 国語科 学びのデザイン案

1年3人 2年5人 計8人

指導者

- 1 単元 おもいうかべながらよもう（教材「くじらぐも」光村図書1年下）
そうぞうしたことを音読げきであらわそう（教材「お手紙」光村図書2年下）

2 単元の目標

場面の様子に着目し、登場人物の行動とその理由を具体的に想像しながら読み、学習課題に沿って考えたことを音読劇で表現することができる。

3 児童の実態（調査対象 1年3人 2年5人 計8人）

本学級の子供たちの実態は、次のとおりである（数字は人数を表す）。

第1学年	第2学年
① 場面の様子を読み取ること（時・場所・人・出来事） ・できる（2）・できない（1）	① 場面の様子を読み取ること（時・場所・人・出来事） ・できる（3）・できない（2）
② 登場人物の行動と理由を読み取ること ・できる（3）・できない（0）	② 登場人物の行動と理由を読み取ること ・できる（3）・できない（2）
③ 読解をどのように音読に生かすか（複数回答） ・声の大きさ（2）・読む速さ（1）・表情（1） ・動き（3）・わからない（0）	③ 読解をどのように音読に生かすか（複数回答） ・声の大きさ（4）・読む速さ（3）・表情（1） ・間の取り方（1）・動き（3）・わからない（1）
以上のことから、会話文や行動描写に着目して、動作化と読み取りを連動させて読むことで、音読表現についての理解を深め、技能を高めていくことが大切であると考える。	以上のことから、会話文や挿絵に着目して場面と場面を比較したり関係付けたりして読み取ったことを「自分だったら」と考えることで登場人物に同化し、音読劇で表現できるようしていくことが大切であると考える。

4 学習計画（第1学年10時間、第2学年12時間）

あ 学習 計画	い 道具 ・活動	う 解決 方法・考え方	え 課題 ・めあて	お 学習 時間・ペース	か 学習形 態・スタイル	き 振り返 り
学習課題・主な学習活動（第1学年）						学習課題・主な学習活動（第2学年）
前半						
1 これまでの文学的文章教材の学習を振り返る。題名や初発の感想をもとに問い合わせる。 2 学習課題や計画を設定する（試行の音読）。あ お き おうちの人や地域の人に、物語の様子が伝わるような音読劇にするには、どのように読めばよいのかな。						1 これまでの文学的文章教材の学習を振り返る。題名や初発の感想をもとに問い合わせる。 2 学習課題や計画を設定する（試行の音読）。あ お き おうちの人や地域の人に、登場人物の様子が伝わるような音読劇にするには、どのように読めばよいのかな。
3 教材「くじらぐも」を読み、時間や場所の変化、登場人物の行動を考えながら、内容の大体を捉える。 4～7 教材「くじらぐも」を読み、場面の様子や人物の様子を捉える。 ○くじらぐもがあらわれてはりきる子どもたち ○くじらぐもに飛び乗ることができた子どもたち ○空の上の子どもたち（本時6/10） ○元気よく帰っていったくじらぐも 8 読み取ったことをどのように音読に生かすのかを考える。 「会話」や「行動」、「挿絵」に着目して、場面の様子を想像したり、どのように音読すればよいかを考えたりしながら読めばよい。						3 教材「お手紙」を読み、時間や場所の変化、登場人物の行動を考えながら、内容の大体を捉える。 4～8 教材「お手紙」を読み、場面の様子や人物の様子を捉える。 ○ふしあわせな気持ちの二人（本時5/12） ○お手紙を書くかえるくん ○お手紙の到着を待つかえるくんとがまくん ○お手紙の内容を教えたかえるくん ○幸せな気持ちでお手紙を待つ二人 9 読み取ったことをどのように音読に生かすのかを考える。 「会話」や「行動」、「挿絵」に着目して、登場人物の行動やその理由を想像したり、どのように音読すればよいかを考えたりしながら読めばよい。
9 それぞれのオリジナル「くじらぐも」を基に話し合い、全体の「台本カード」を作成し、音読劇の練習をする。 10 学習発表会で「くじらぐも」の音読劇を発表し、本単元の学習を振り返る。 「会話」「行動」「挿絵」「リフレイン」等に着目し、場面の様子を想像したり、動作化を通して登場人物に同化したりしてどのように音読すればよいかを考ながら読むこと。						10 一人一人の「台本カード」を作成し、それを基に全体の「台本カード」を作成する。 11 音読劇の練習をする。 12 学習発表会で「お手紙」の音読劇を発表し、本単元の学習を振り返る。 「会話」「行動」「挿絵」「題名」「語り手」等に着目し、場面を比較したり関係付けたりして登場人物の行動やその理由を想像したり、どのように音読すればよいかを考えたりしながら読むこと。

5 本単元における言葉による見方・考え方

(第1学年)

「会話」「行動」「挿絵」「リフレイン」等に着目し、場面の様子を想像したり、動作化を通して登場人物に同化したりしてどのように音読すればよいかを考ながら読むこと。

(第2学年)

「会話」「行動」「挿絵」「題名」「語り手」等に着目し、場面を比較したり関係付けたりして登場人物の行動やその理由を想像したり、どのように音読すればよいかを考えたりしながら読むこと。

6 本 時 (第1学年: 6/10, 第2学年: 5/12)

(1) 目 標 (及び, 評価)

- 場面の様子に着目して読み, 子供たちやくじらぐもの様子を具体的に想像することができる。
(できたか。)

(2) 実 際

道具・活動	解決方法・考え方	課題・めあて	学習時間・ペース	学習形態・スタイル	振り返り	
<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のノート記述を振り返る時間を設定することで、本時の学びにつなげられるようにする。 ○ 自分の言葉でめあてを立てることで、課題を解決する意欲を高めることができるようになる。 ○ 自力解決や共有、まとめに必要な時間を選択・確認する時間を設定することで、時間を管理しながら自己の学びを調整する意識を高めることができるようになる。 ○ 前時に考えた海の上での挿入話を掲示しておくことで前時の内容を想起し、課題解決の見通しをもつことができるようになる。 ○ 空の上で子供たちが言ったことや感じたことを吹き出しに書く活動を設定することで、空所から想像を働かせ、自分の考えを表現できるようになる。 ○ 村や町の写真を提示したり、見える情景(視覚)だけでなく、他の五感(聴覚、触覚、嗅覚など)から想像することを促したりすることで、より想像が膨らむようになる。 ○ 早く解決できた子供には、「空は、どこまでもどこまでもつづきます。」の後の続きを考えるよう働きかける。 ○ 「前の場面と比べてどう変わっているのかな。」と問うことで、同化体験した吹き出しの内容が、前の場面と比較してどう変化・発展しているかという「外の目」を通した見方でより考えを深めることができるようにする。 ○ 気付いたことや考えたことの共通点を出し合う時間を設定することで、自分たちでまとめへとつなげることができます。 ○ 空の上のことについて想像したことを、「○○の上で、○○しました。」+「」(外言や内言)などの文型を示すことで、自分の言葉で学びを振り返り、まとめとして要約するようになる。 ○ 本時の学びを振り返り、ノートに記述する時間を設定することで、自らの学びを自覚化し、学び方や学び合いのよさを実感することができるようになる。 ○ それぞれの振り返りを全体で共有し、学習内容と学び方について、そのよさを価値付けることで自分たちの学び方のよさを実感することができるようになる。 	<p>主な学習活動 (第1学年)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの学習を振り返る。 前の時間は、海の上でどんな話をしたのかを考えたよ。今日も、空の旅の続きのお話を考えたいな。 2 本時の学習課題を確認する。 みんなは、町や村の上でどんな話をしていたのかな。 3 課題解決の見通しをもつ。 <学習の流れの見通し> 一人学びは、15分できそうだね。 学び合いは、10分くらいかな。 4 自力解決をする。 空所から想像を働かせ、町や村の上での挿入話をワークシートに考えを記述する。 「さらさら。川の音が聞こえるね。そよ風が頬に当たって気持ちがいいね。 畑仕事をしている人が見えるね。 5 友達と考えを共有する。 自分の意見を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながら空の上で子供たちが話したと思うことについて話し合う。(ノート・ワークシート) 6 学習のまとめを行う。 町の上で、みんなはいろいろな話をしました。 「ぼくのおうちが見えたぞ。お母さん、聞こえるかなあ。」 7 本時の学習を振り返る。 ノートに振り返りを記述し、全体で共有する。 「青い青い空のなかを」と書いてあったので、町の景色がよく見えたことがわかった。 友達が想像したことを聞くと、自分の考えももっとふくらんでいったよ。 次のくじらぐもとお別れする場面も同じように想像してみたいな。 	<p>過程</p> <p>③ 振り返る</p> <p>⑤ つかむ・見通す</p> <p>⑫ 調べる・深める</p> <p>⑭ まとめる・生かす・振り返る</p> <p>⑮ つかむ・見通す</p> <p>⑯ 調べる・深める</p> <p>⑰ まとめる・生かす・振り返る</p>	<p>位置/時間</p> <p>③</p> <p>⑤</p> <p>⑫</p> <p>⑯</p>	<p>過程</p> <p>③ 振り返る</p> <p>⑤ つかむ・見通す</p> <p>⑯ 調べる・深める</p> <p>⑰ まとめる・生かす・振り返る</p>	<p>主な学習活動 (第2学年)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの学習を振り返る。 前の時間は、二人の気持ちがどのように変わったかを読み取ったね。でも、なんで、かえるくんまで悲しい気持ちだったのかな。 2 本時の学習課題を確認する。 かえるくんまでかなしいのは、なぜなのだろうか。 3 課題解決の見通しをもつ。 <学習の流れの見通し> 15分で自分の考えをまとめよう。 その後、10分で学び合いをしよう。 4 自力解決をする。 かえるくんがなぜ悲しいのかが分かる叙述や挿絵に線を引き、ノートに考えを記述する。 大好きな「親友」のがまくんが悲しんでいるから、かえるくんも悲しくなったと思う。 ぼくも、大切な友達が泣いているとき、同じように悲しくなったことがあるよ。 5 友達と考えを共有する。 自分の意見を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながらかえるくんがなぜ悲しいのかについて話し合う。(ノート) 6 学習のまとめを行う。 大切な親友のがまくんが、悲しんでいる姿を見るのが悲しいから。 7 本時の学習を振り返る。 ノートに振り返りを記述し、全体で共有する。 1の場面と5の場面の挿絵を比べて考えたら、かえるくんがなぜ悲しい気持ちになったのかがわかった。 自分だったら…と考えると、もっとかえるくんの気持ちがわかったよ。 2人の悲しい気持ちが伝わるように、音読を工夫していきたいな。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のノート記述を振り返る時間を設定することで、本時の学びにつなげられるようにする。 ○ 「二人の悲しさは同じなのかな。」と問うことで、がまくんの悲しさとは違うというズレを実感し、課題意識をもって課題解決に向かうことができるようになる。 ○ 自力解決や共有、まとめに必要な時間を選択・確認する時間を設定することで、時間を管理しながら自己の学びを調整する意識を高めることができるようになる。 ○ 「どんな技(視点)が使えそうかな。」と問うことで、課題解決に適した方法を個々で選択・確認し、見通しをもって取り組むことができるようになる。 ○ 自分の考えをノートに書いたり根拠となる挿絵や叙述に線を引いたりする活動を設定することで、かえるくんの気持ちの背景について自分の考えを明確にできるようになる。 ○ 5の場面の挿絵を提示しておくことで、挿絵の比較を通して、かえるくんの気持ちを捉えることができるようになる。 ○ 「かえるくんが、自分だったらどう思うかな。」と問うことで、自分の体験や生活経験を関係付けながら、かえるくんの気持ちに寄り添って考えができるようになる。 ○ 早く解決できた子供には、かえるくんやがまくんの挿絵に吹き出しを書き、その中に言葉を入れるように働きかけることで、読み取ったことを表現することができるようになる。また、読み取ったことをどのように音読に生かしていくかを考えるよう働きかける。 ○ 気付いたことや考えたことの共通点を出し合う時間を設定することで、自分たちでまとめへとつなげることができます。 ○ 本時の学びを振り返り、ノートに記述する時間を設定することで、自らの学びを自覚化し、学び方や学び合いのよさを実感することができるようになる。 ○ それぞれの振り返りを全体で共有し、学習内容と学び方について、そのよさを価値付けることで自分たちの学び方のよさを実感することができるようになる。